

# 加瀬みきの ワシントン発 グローバル随想



イラスト・題字：長峯亜里

第29回

## アメリカとの付き合い方 に苦慮するカナダ

トランプ大統領の2期目になり、何かとカナダが話題になっている。アメリカとカナダは8891キロメートルもの国境を共有し、歴史や民族的背景、経済、安全保障と多くを共有する隣国だが、トランプ政権下、両国間の関係は後戻りのできないほど悪化している。

### カナダで変貌したアメリカ観

トランプ氏は大統領就任前から「多くのカナダ人は、カナダが(アメリカの)51番目の州になるのを望んでいる。そうなれば、税金を大幅に節約でき、軍事的保護も得られる。素晴らしいアイデアだと思う」とSNSへの投稿などを繰り返してきた。

さらにカナダはメキシコや中国と共に高関税の標的となった。アメリカへ「不法移民や合成麻薬フェンタニルをかつてないほど大量に流入させている」と2月にカナダとメキシコからの全製品に25%の追加関税をかける大統領令を発表、3月にはカナダ原産のエネルギーとその資源に10%、それ以外の製品には25%の追加関税が賦課された。トランプ政権1期目に締結された米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の特恵関税が適用される品目も例外ではない。

メキシコからアメリカへの昨年の不法移民が150万人に対し、カナダからはわずか2万3千

人で、カナダからのフェンタニルの流入は米国境で押収される量のわずか0.1%である。それでもカナダは対応を迫られる。

4月のYouGov社の調査では、カナダ人の64%がアメリカは非友好的あるいは敵とみなし、61%がアメリカ製品をボイコットし始めている。



「カナダは51番目の州じゃない!」と書かれたTシャツを着た女性 (提供：朝日新聞社)

Ipsos社が29カ国を対象として行っている「アメリカは世界に肯定的な影響を与える国と見なすか」の調査でも、2024年の大統領選挙前にはカナダ人の52%が肯定的とみなしたが、半年後の4月には最低の19%と大幅に減少した。肯定的な見方は29カ国の平均で46%と、半年前の59%から大きく減っている。その中でもカナダの19%は最低である。

### トランプ氏が逆転させた選挙

カナダでは1月に与党自由党を9年間率いてきたジャスティン・トルドー首相が辞意を表明し、4月28日に総選挙が行われた。当初野